

女性内視鏡医のキャリアサポートに関するアンケート調査結果(中国支部版)

- 2021年6月3日ー7月10日の期間で日本消化器内視鏡学会の女性会員5,448名のうち、学会事務局にメールアドレスを登録していた5,323名(98%)にWebでのアンケート調査を依頼した。
- 期間内に1,494名 (28%)からアンケートの回答があり、その中から中国支部所属の98名の回答を抽出して集計した。
- 回答が1つの質問は円グラフに、複数回答が可能な質問は横棒グラフに集計した。

アンケート項目

Q1.あなたの年齢をお教え下さい。

・ 20歳台 ・ 30歳台 ・ 40歳台 ・ 50歳台以上

Q2.ご所属の支部はどちらですか。

・ 北海道 ・ 東北 ・ 関東 ・ 甲信越 ・ 東海 ・ 北陸 ・ 近畿 ・ 中国 ・ 四国 ・ 九州

Q3.現在の勤務施設はどちらですか。(複数回答可)

・ 大学病院 ・ 市中病院 ・ 検診施設 ・ 診療所(開業) ・ その他

Q4.現在の勤務についてお答えください。

①週実労働時間

・ 0、なし ・ 2~10 ・ 11~20 ・ 21~30 ・ 31~40 ・ 41~50 ・ 51~60 ・ 61~70 ・ 71~80 ・ 81~90 ・ 91~100 ・ 101~ ・ スポット、不定期

②月平均当直回数

・ 0、なし、育休 ・ 0.1~1回 ・ 1.1~2回 ・ 2.1~3回 ・ 3.1~4回 ・ 4.1~5回 ・ 5.1~6回 ・ 6.1~7回 ・ 7.1~8回 ・ 8.1~9回 ・ 10回以上 ・ その他(日直のみ等)

③月平均オンコール回数

・ 0、なし、育休 ・ 1回 ・ 2回 ・ 3回 ・ 4回 ・ 5回 ・ 6回 ・ 7回 ・ 8回 ・ 9回 ・ 10回 ・ 11~20回 ・ 21回以上、毎日 ・ その他、特に決まりなし、不定

Q5.結婚はされていますか。

・ 既婚 ・ 未婚 ・ その他

Q6.お子さんはいらっしゃいますか。

・ いる ・ いない

以下のQ7-11はQ6で「いる」と回答した方への質問

Q7.お子さんの人数と年齢を教えてください。(複数回答可)

・ 妊娠中 ・ 就学前 ・ 小学生 ・ 中学生以上

Q8.出産後に勤務形態は変わりましたか。

・ 変わった ・ 変化なし

Q9.家庭内での育児の主たる担い手は誰ですか。（複数回答可） ・自分自身 ・配偶者、パートナー ・自分の両親、親族 ・配偶者、パートナーの両親、親族
Q10.ご自身又は配偶者・パートナーの勤務先に育児の支援体制としてあるものを選択ください。（複数回答可） ・ない ・託児所 ・時短勤務制度 ・当直、オンコール等の免除 ・わからない ・その他
Q11.ご自身又は配偶者・パートナーの勤務先に病児保育の支援体制はありますか。 ・ある ・ない ・わからない
Q12.専門医等の資格をお持ちですか？(複数回答可) ・消化器内視鏡学会専門医 ・消化器内視鏡学会指導医 ・消化器病学会専門医 ・認定内科医 ・総合内科専門医 ・その他(未取得を含む)
Q13.消化器内視鏡専門医の方は取得時の卒後年数をお教えてください。 ・1年 ・2年 ・3年 ・4年 ・5年 ・6年 ・7年 ・8年 ・9年 ・10年 ・11年 ・12年 ・13年 ・14年 ・15年 ・16年 ・17年 ・18年 ・19年 ・20年 ・21年以上 ・不明
Q14.ご自身のキャリア形成に障害となっているものがありますか。（複数回答可。） ・自分の体調、体力 ・自分の能力 ・労働条件の悪さ ・職場での専門教育を受けられない ・職場の人間関係 ・適した就職先が探せない ・結婚 ・出産、育児 ・子供の教育 ・職場の性差別 ・家族の支援のなさ ・配偶者の転勤 ・留学 ・金銭的な問題 ・その他
Q15.ご自身がキャリアを積む上で、支援が欲しいと思ったことを選択ください。（複数回答可） ・勤務医師の労働条件の明確化(労働時間、給与等) ・勤務医師の身分の明確化（保険・年金など） ・主治医制ではなくチーム制の導入 ・卒後研修制度の柔軟性 ・留学、研究の機会に対する制度 ・院内保育所の整備 ・病児保育の充実 ・ワークシェア制度の導入 ・フレックスタイム制度の導入 ・多職種への役割分担 ・緊急時の代替要因の確保 ・職場の意識改革 ・家族の意識改革 ・就職情報 ・休業後の再教育制度 ・休業後の再就職制度 ・その他
Q16.仕事内容に関し性差を感じたことがありますか。 ・全く感じない ・感じないことが多い ・どちらともいえない ・感じるが多い ・非常に多く感じる

Q17.昇進に関して性差を感じたことがありますか。 ・全く感じない　・感じないことが多い　・どちらともいえない　・感じるが多い　・非常に多く感じる
Q18.女性内視鏡医が同僚として勤務する場合に自分にとって支障となると感じますか。 ・全く感じない　・感じないことが多い　・どちらともいえない　・感じるが多い　・非常に多く感じる
Q19.女性のキャリア支援として当学会で行うべき取り組みと思うものを選択ください。(複数回答可) ・キャリア形成についての教育や講演会　・学会総会時に女性医師支援に関するプログラム　・学会のWeb形式の開催　・教育講演会のWeb形式の開催　・ライブセミナーのWeb形式の開催 ・育児等で臨床ブランクがあるものを対象とした臨床復帰支援プログラム　・女性評議員の割合を増員　・女性座長の積極的な登用　・その他
Q20.内視鏡のハンズオンセミナーについてお答えください(複数回答可)。 ・従来通り学会や講演会の場で行ってほしい　・Web形式などが可能であれば検討してほしい　・総会や支部例会以外にも各地域などで行ってほしい　・その他
Q21.消化器内視鏡に関する何らかのキャリアサポート研修を受講されたことがありますか？ ・あり　・なし
Q22.受講した研修はどのような形態でしたか。 ・出身医局、大学、所属病院関連　・関連なし
Q23.研修期間はどれくらいでしたか。 ・1-2日間　・3-7日間　・1か月以内　・1か月以上
Q24.内視鏡手技習得にはどの練習機器が有用でしたか。(複数回答可) ・内視鏡シミュレーター　・胃モデル　・コロンモデル　・その他　・当てはまるものはない(あまり有用ではない)
Q25.主にどなたに指導を受けましたか ・消化器内視鏡指導医　・消化器内視鏡専門医　・それ以外のスタッフ
Q26.内視鏡研修で何件の内視鏡検査を経験しましたか。 ・1-49例　・50-99例　・100例以上

Q27.治療内視鏡も研修しましたか。 ・ はい ・ いいえ
Q28.その研修後に消化器内視鏡専門医を取得しましたか。 ・ はい ・ いいえ ・ 取得予定
Q29.現在、消化器内視鏡のキャリアサポート研修を希望しますか。 ・ はい ・ いいえ
Q30.消化器内視鏡のキャリアサポート研修において解決すべき問題点は何でしょうか。(複数回答可) ・ 研修施設の増加 ・ 各地方での研修施設の整備 ・ 研修施設の情報提供が足りない ・ 研修施設の受け入れ人数が少ない ・ 研修体制の質向上 ・ 上級医の指導への熱意、指導力 ・ 研修可能な症例数増加 ・ 研修期間の短縮 ・ 研修期間の長期化 ・ 研修施設の保育所・託児所整備 ・ その他
Q31.出産・育休後の復職にあたり解決すべき問題点は何でしょうか。(複数回答可) ・ 保育所、託児所の整備 ・ 病院保育、院内保育の整備 ・ 子供の急病時にはいつでも休める環境 ・ 勤務体制整備(非常勤勤務、フレックスタイム、ジョブシェアリングなど) ・ 当直、オンコールの免除 ・ 施設幹部、上司、同僚の理解 ・ 他女性医師の理解、支援 ・ 夫の理解、支援 ・ 家族(夫を除く)の理解、支援 ・ 専門医の取得、更新 ・ その他
Q32.将来はどのような勤務形態を希望しますか。 ・ 市中病院(常勤) ・ 市中病院(非常勤) ・ 検診施設 ・ 診療所(開業) ・ 主に内視鏡検査(検診を含む) ・ 主に内視鏡治療 ・ 臨床研究、基礎研究 ・ 内視鏡診療から離れたい ・ 家事、育児に専念したい ・ その他

1：年齢・施設・勤務状況について

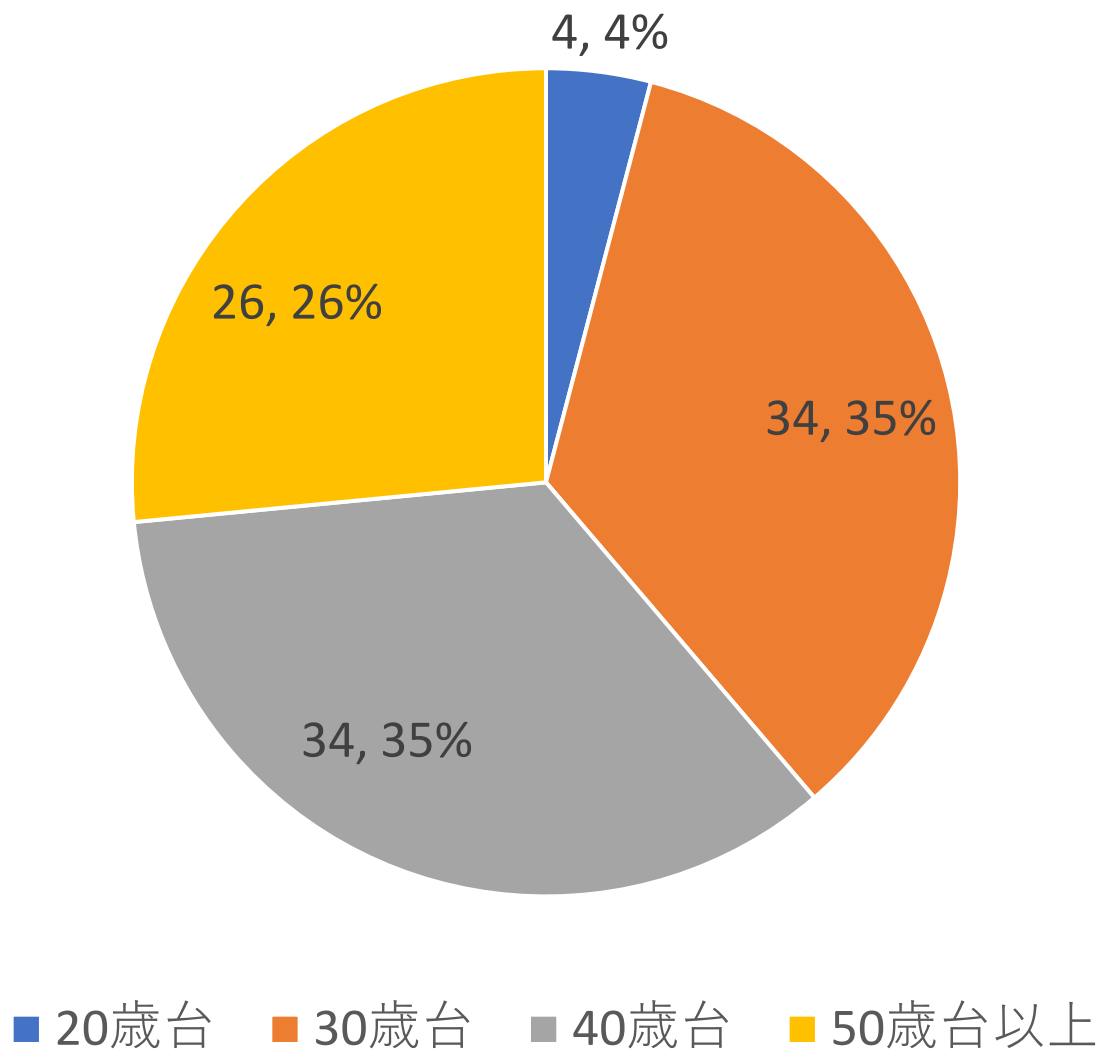
回答者の年齢分布(Q1 スライド7)は、20代は4%と少なく、30代、40代がそれぞれ35%と多かった。

現在の勤務施設については複数回答であるため、実数を（Q3 スライド8）に示す。58%（57/98人）が市中病院に勤務しており、また大学病院、検診施設、診療所にそれぞれ20%前後（19-24人）が勤務していた。

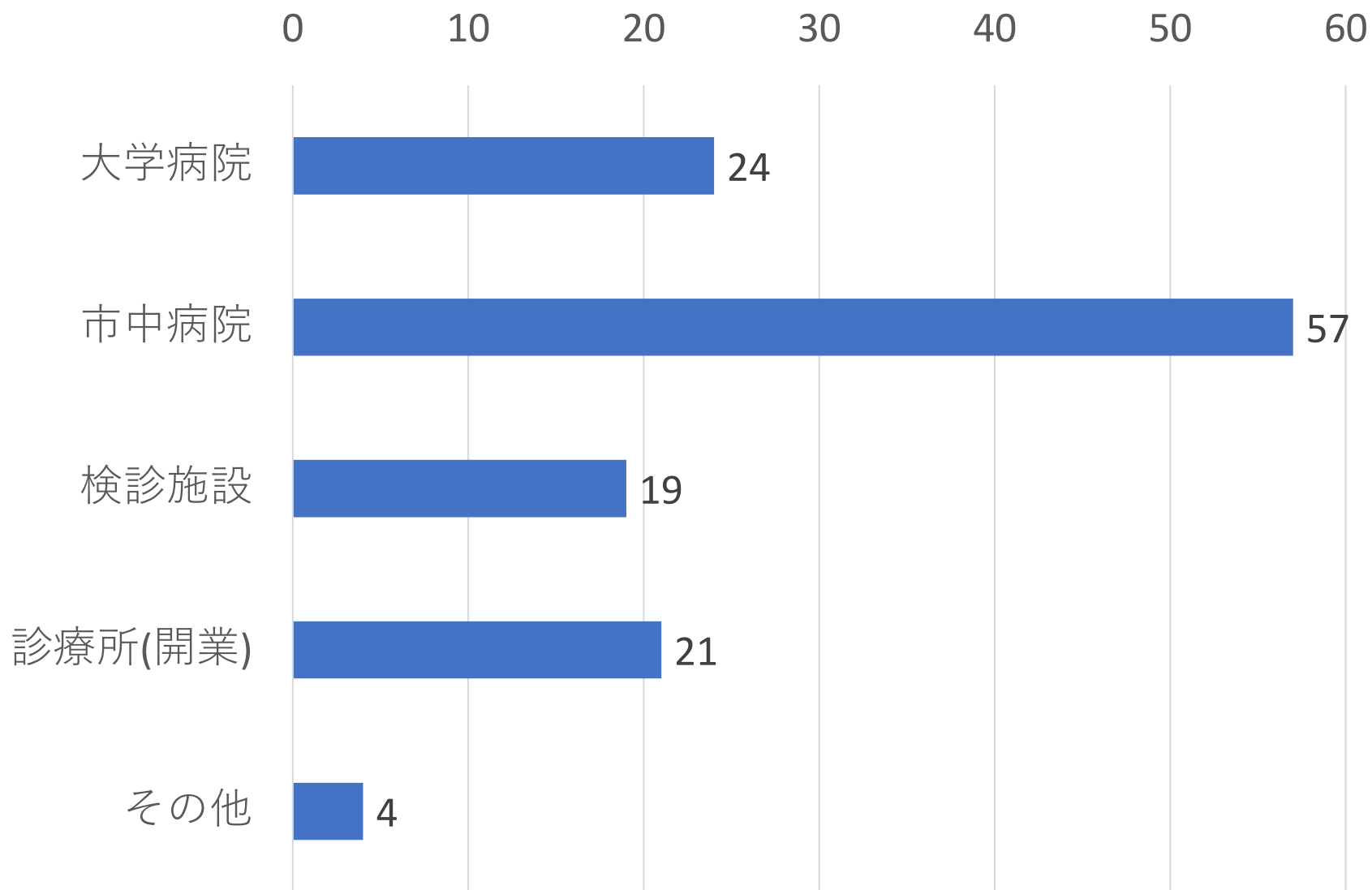
週の実労働時間(Q4① スライド9)は、21-40時間が39%と最も多く、20時間以下と合わせると週40時間以下が61%であった。

月平均の当直(Q4② スライド10)とオンコール(Q4③ スライド10)の回数は、それぞれ0回が71%、63%と最も多かった。

Q1.あなたの年齢をお教え下さい。(回答98人)

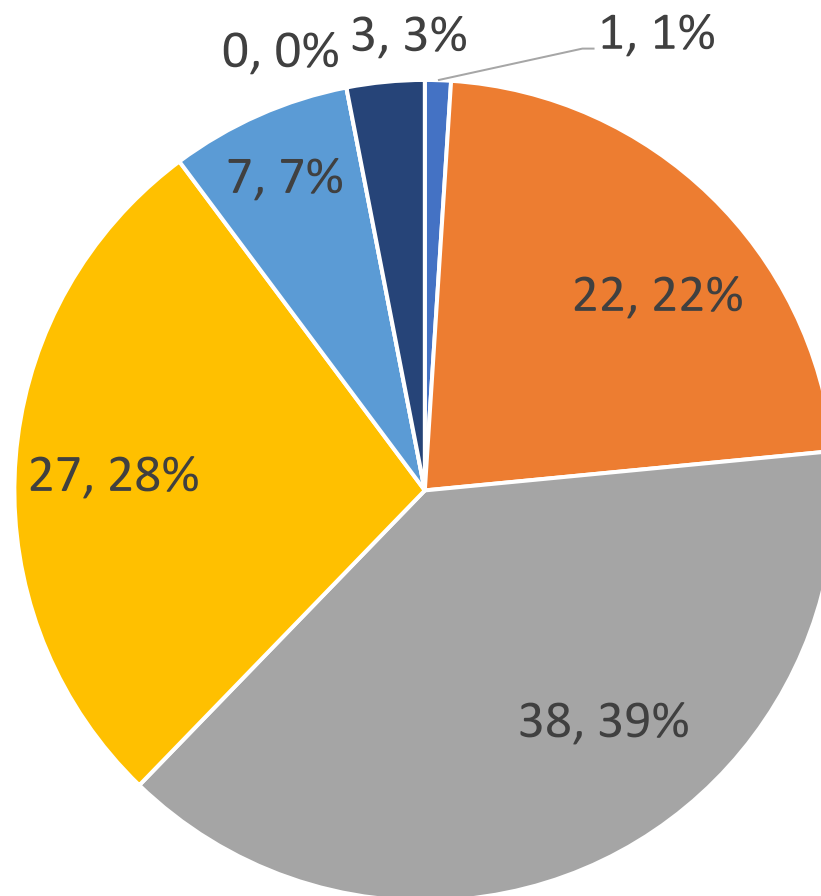


Q3.現在の勤務施設はどちらですか(複数回答可)(回答98人)



Q4.現在の勤務についてお答えください。(回答98人)

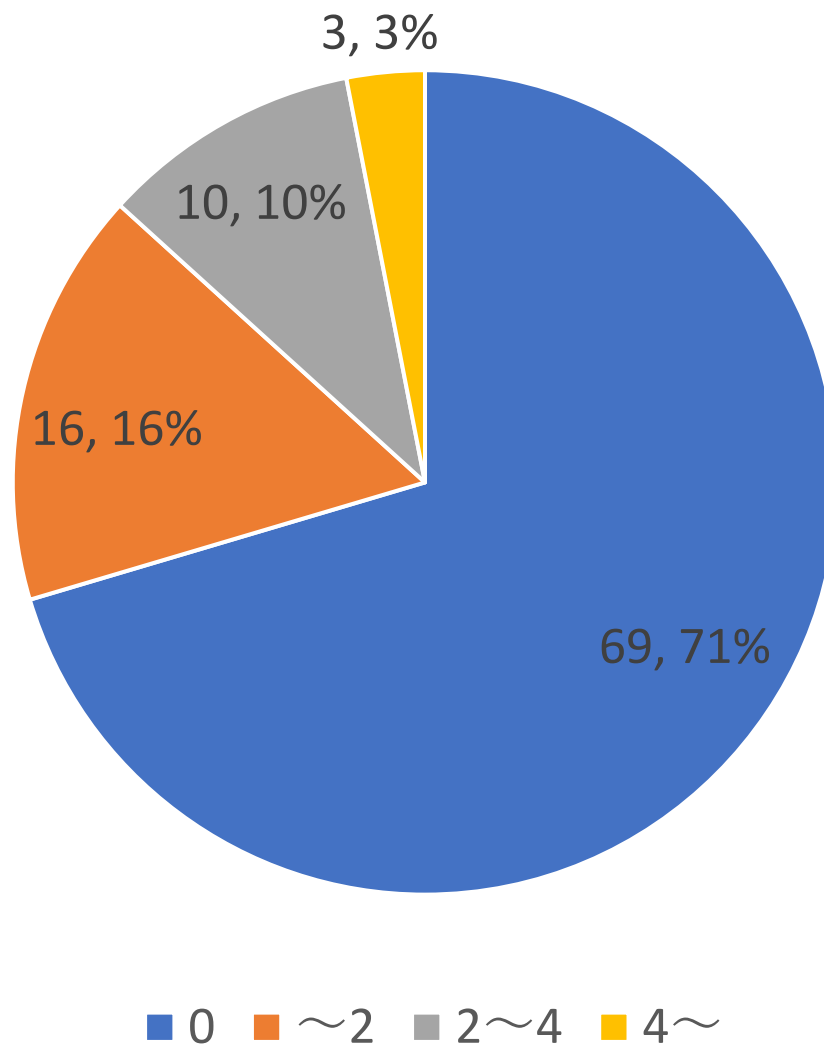
① 週実労働時間



■ 0 ■ ~20 ■ 21~40 ■ 41~60 ■ 61~80 ■ 81~ ■ その他

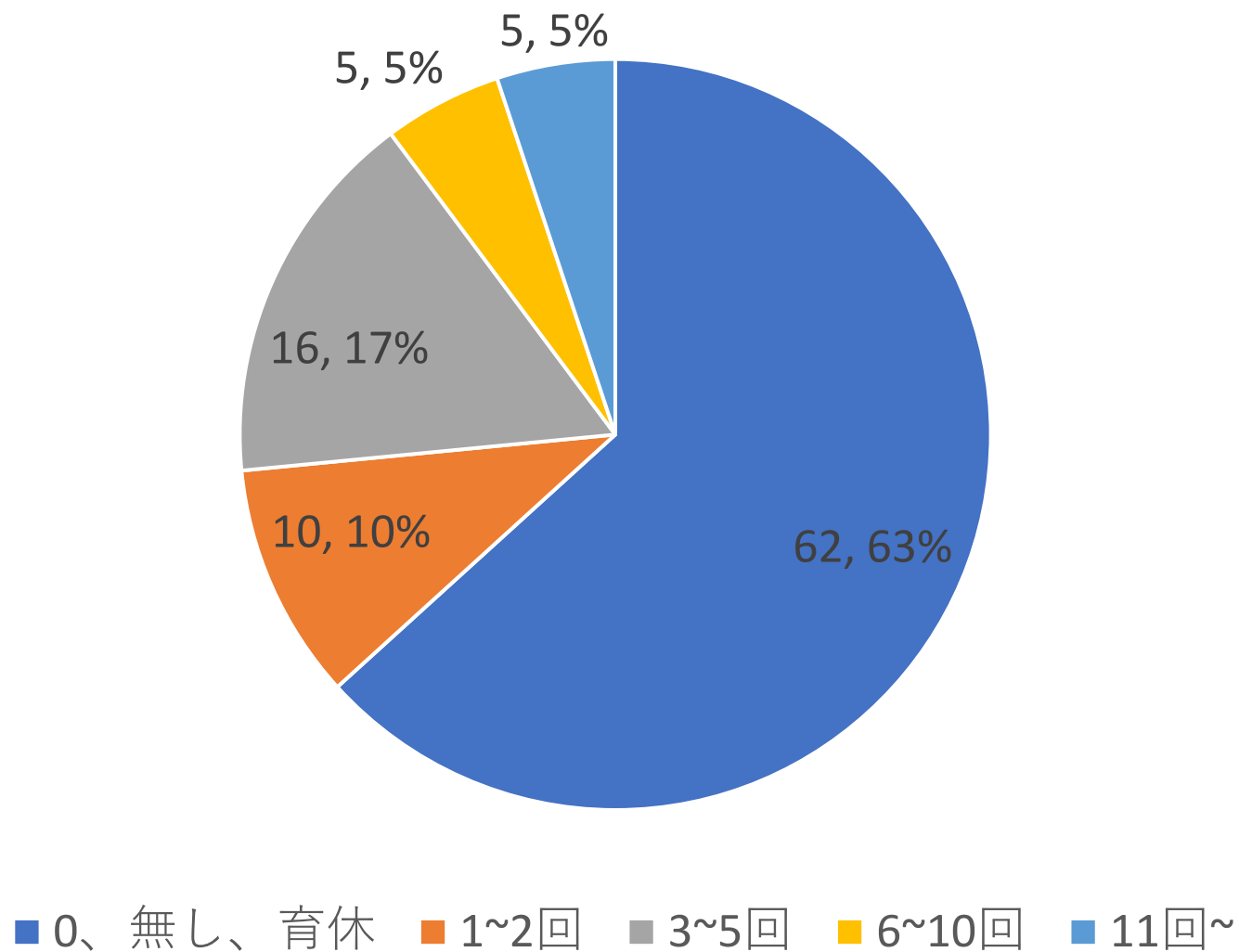
Q4.減在の勤務についてお答えください。(回答98人)

② 月平均当直回数



Q4.現在の勤務についてお答えください。(回答98人)

③ 月平均オンコール回数



2：婚姻・出産・育児について

婚姻関係（Q5 スライド13）では77%が既婚であり、72%が子供をもっていた。（Q6 スライド14）

子供の年齢(Q7 スライド15)では、70人が回答しており、そのうち37%が就学前であり、次いで32%が中学生、28%が小学生であった。

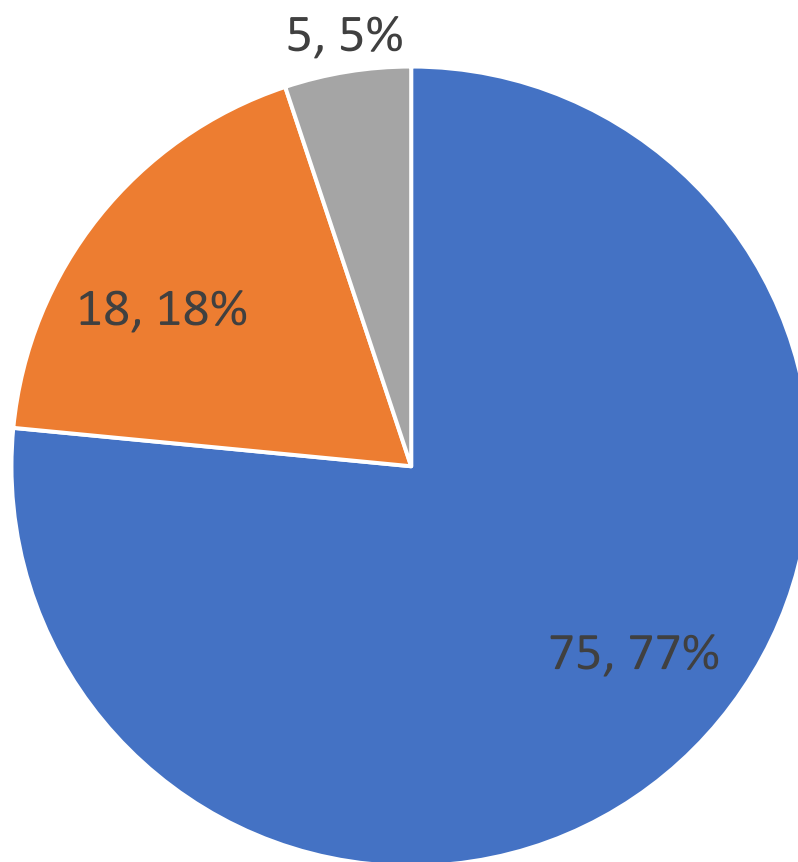
出産後の勤務形態の変化（Q8 スライド16）は81%に認めた。

育児の主たる担い手（Q9 スライド17）については複数回答可であるが、90%（63/71人）が「自分自身」と回答していた。

勤務先の育児支援体制(Q10 スライド18)については、25%（18/71人）が「ない」と回答していた。一方、「託児所」、「時短勤務制度」、「当直・オンコール等の免除」があることがそれぞれ40%ほど（24-29/71人）回答されていた。

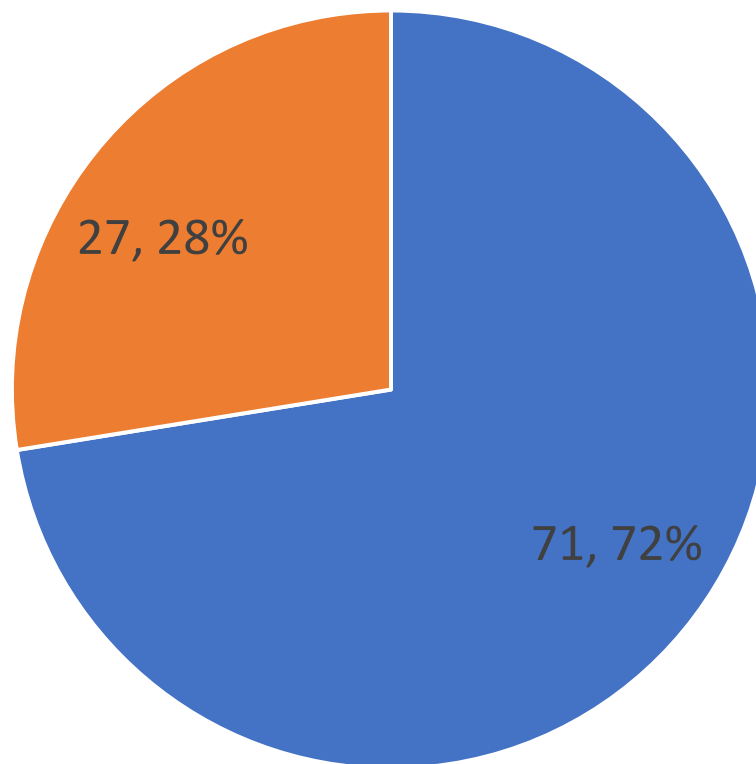
勤務先の病児保育支援体制（Q11 スライド19）については、57%が「ない」と回答しており、「ある」の回答は29%であった。

Q5.結婚はされていますか。（回答98人）



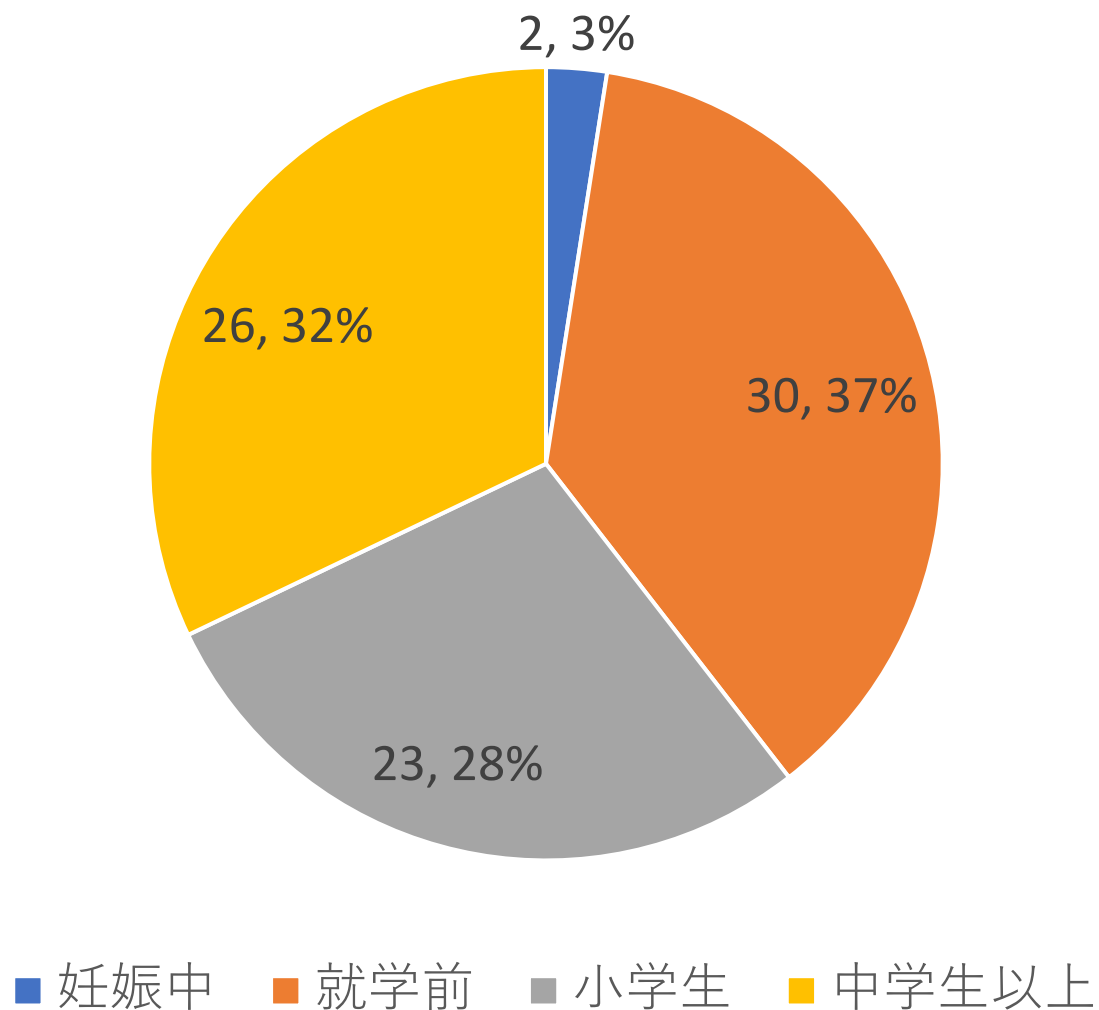
■ 既婚 ■ 未婚 ■ その他

Q6 .お子さんはいらっしゃいますか。 (回答98人)

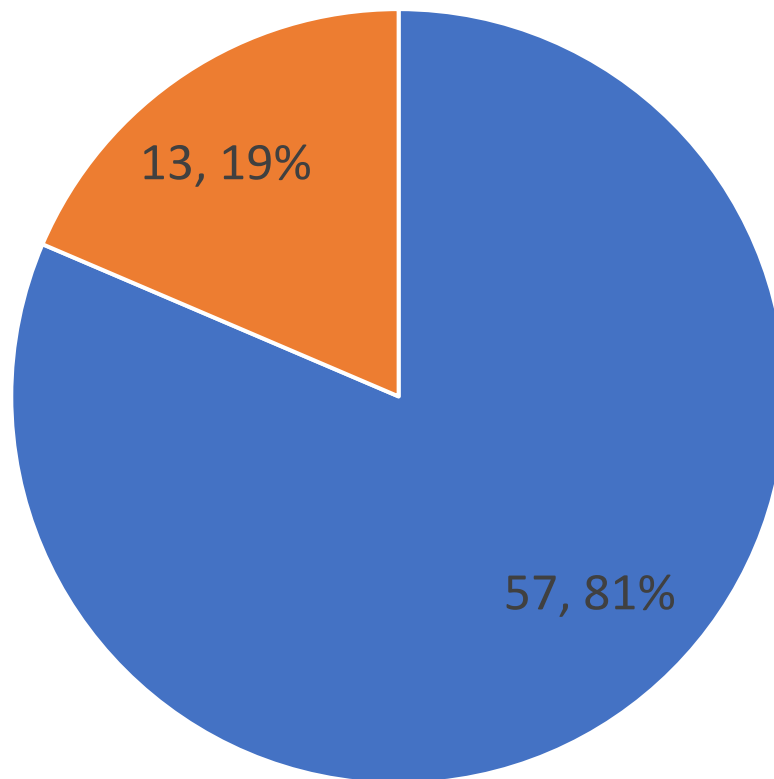


■ いる ■ いない

Q7 お子さんの人数と年齢を教えてください。（複数回答可）（回答70人）

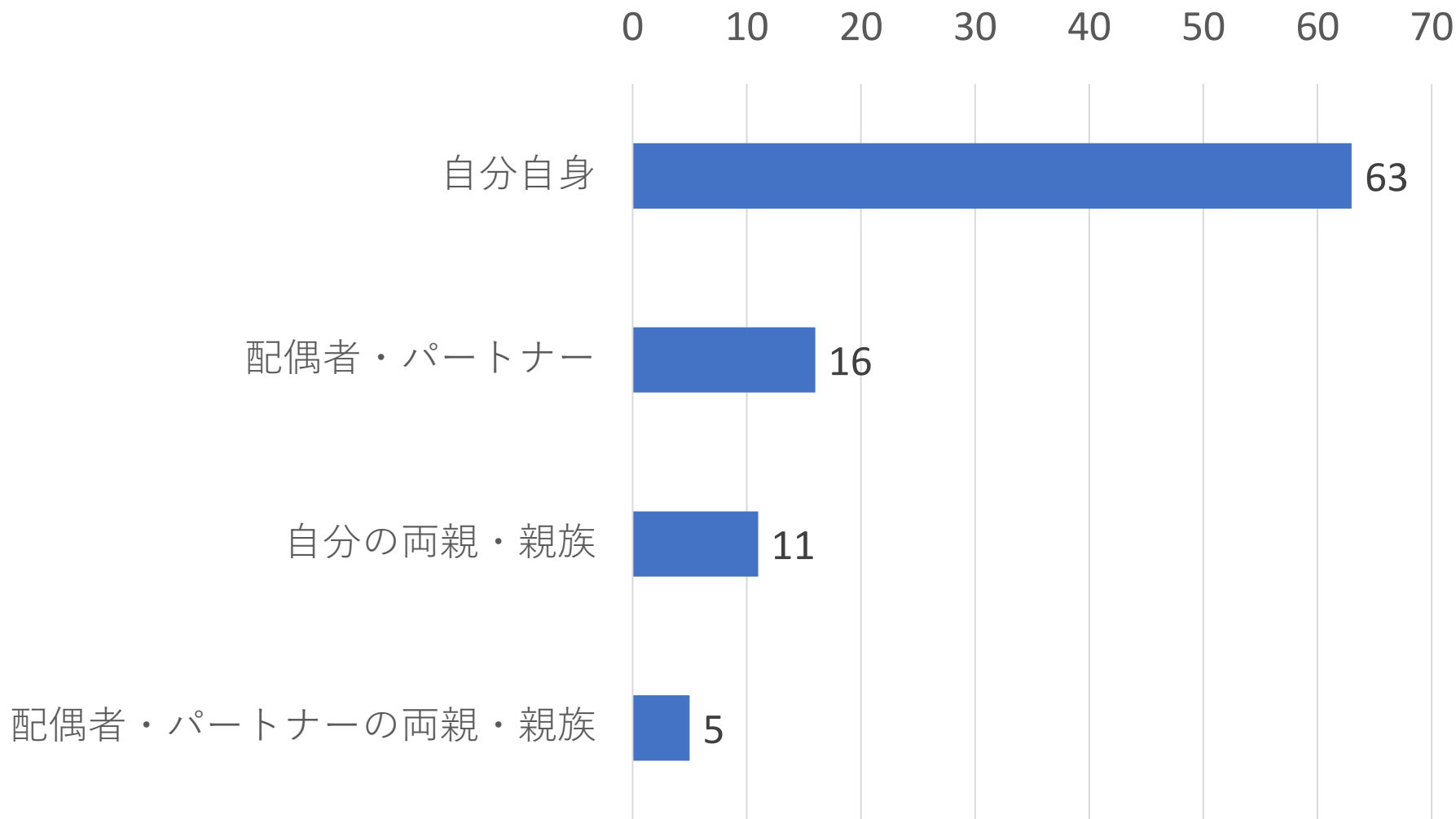


Q8 出産後に勤務形態は変わりましたか。（回答70人）

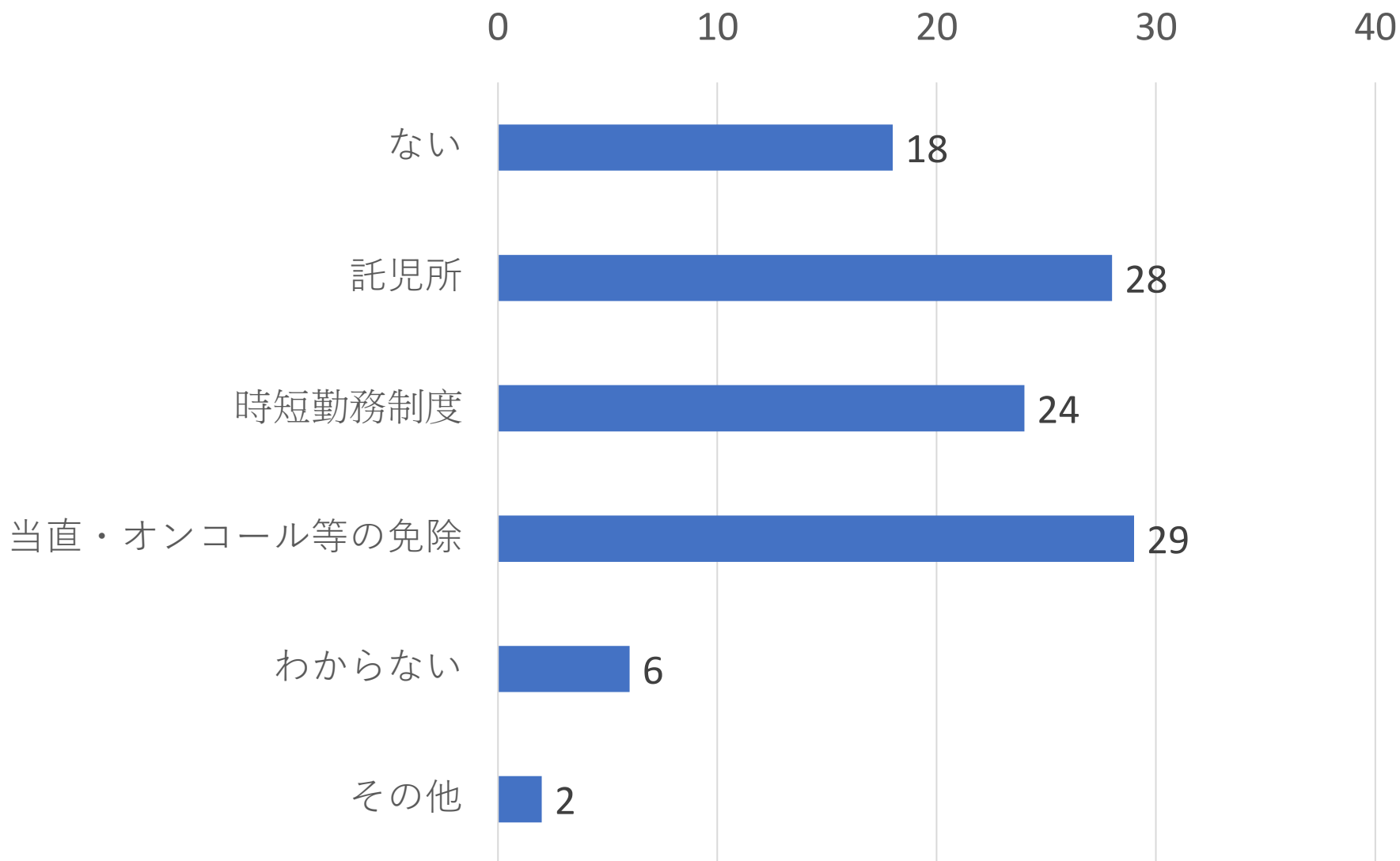


■ 変わった ■ 変化なし

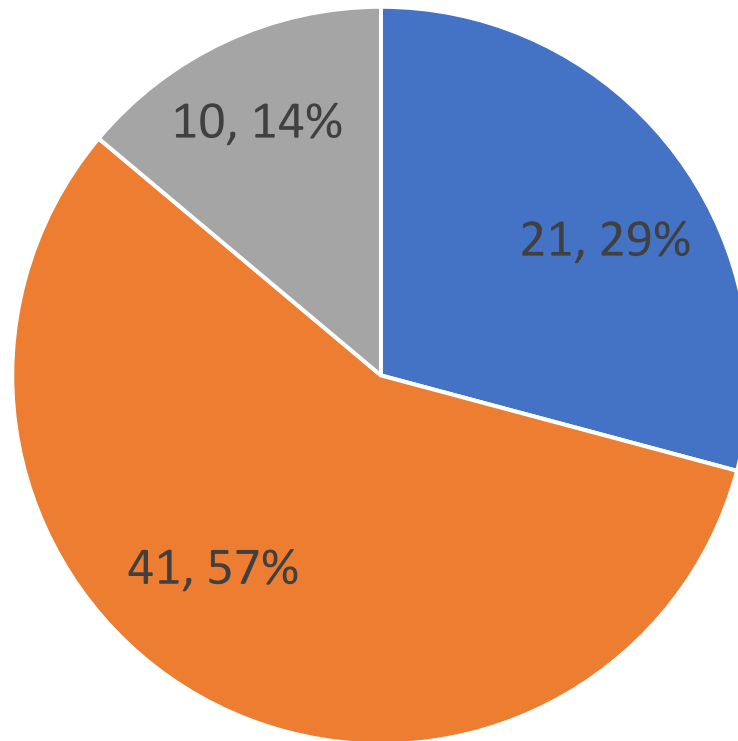
Q9 家庭内での育児の主たる担い手は誰ですか。（複数回答可）（回答70人）



Q10.ご自身又は配偶者・パートナーの勤務先に育児の支援体制としてあるもの
を選択ください。(複数回答可) (回答71人)



Q11 ご自身又は配偶者・パートナーの勤務先に病児保育の支援体制はありますか。（回答71人）



■ ある ■ ない ■ わからない

3：資格・キャリア形成

専門医等の資格の有無（Q12 スライド21）については、消化器内視鏡学会の専門医、指導医はアンケートに回答した医師のうち、それぞれ**60%、16%**が取得していた。またその他の資格では、消化器病学会専門医、認定内科医の取得率が高かった。

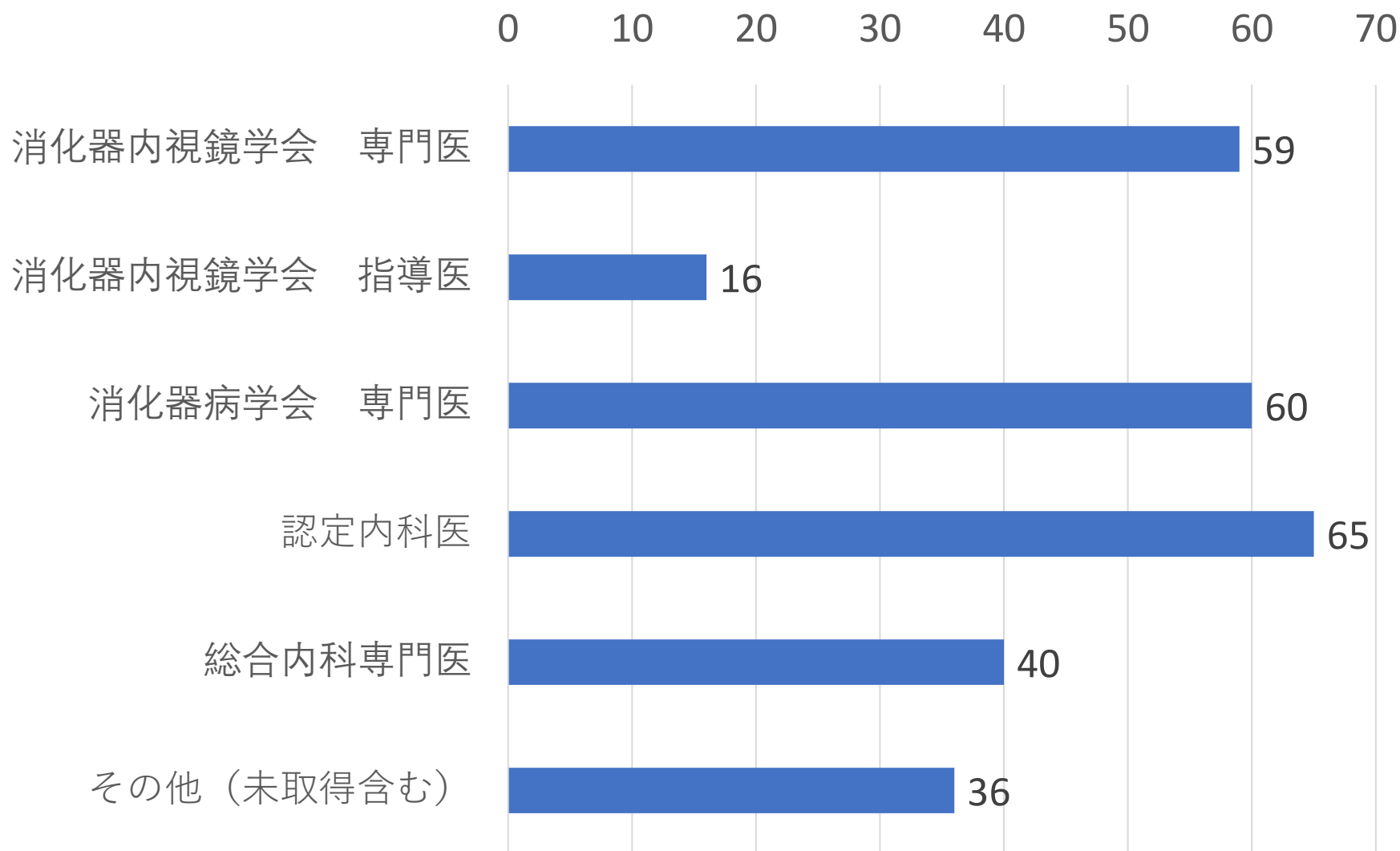
学会専門医取得時の卒後年数（Q13 スライド22）では**18%**が6年以内、**61%**が7-9年であり、**10年以内の取得が79%**であった。

キャリア形成の障害(Q14 スライド23)については、「出産・育児」が**42%（41/98人）**と最も多く、ついで「自分の体調、体力」が**39%**、「自分の能力」が**34%**、「子供の教育」が**31%**であった。

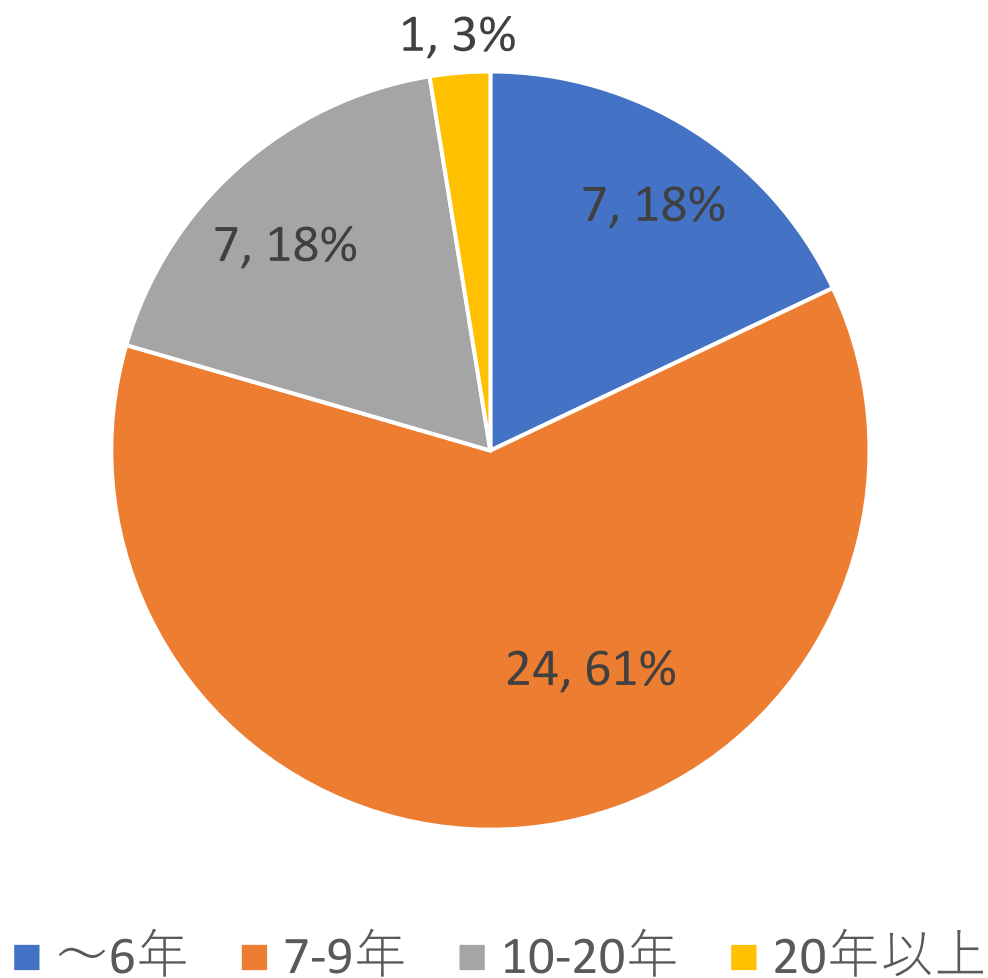
キャリアを積む上で欲しい支援(Q15 スライド24)については、「主治医制ではなくチーム制の導入」が**56%（55/98人）**と最も多く、ついで「緊急時の代替要員の確保」が**51%**、「病児保育の充実」が**50%**、「フレックスタイム制の導入」が**47%**であった。

仕事内容に関する性差を感じるか（Q16 スライド25）については、「どちらともいえない」が**35%**と最も多いが、「感じることが多い」、「非常に多く感じる」を合わせると**26%**であった。

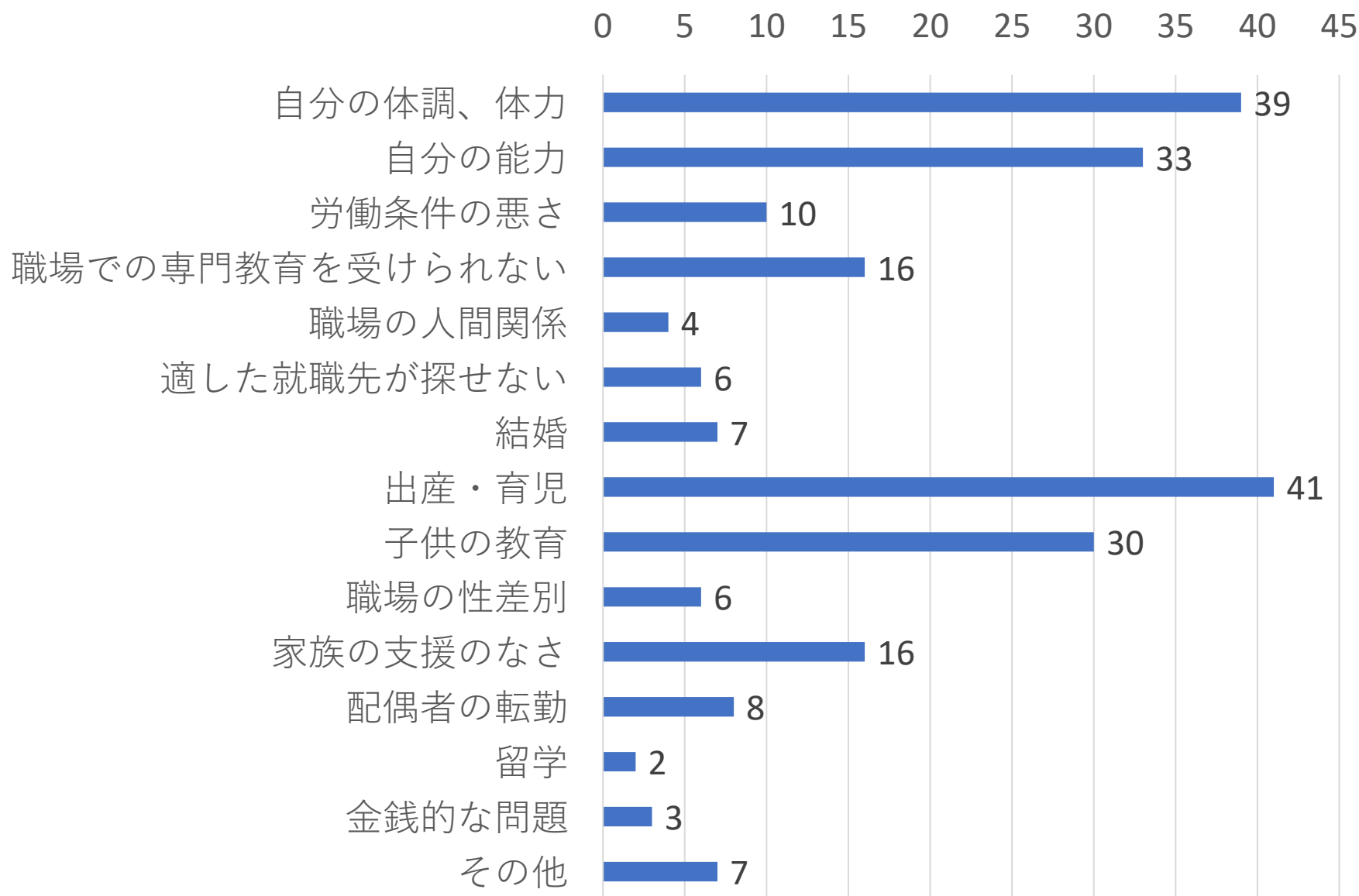
Q12 専門医等の資格をお持ちですか？(複数回答可)(回答98人)



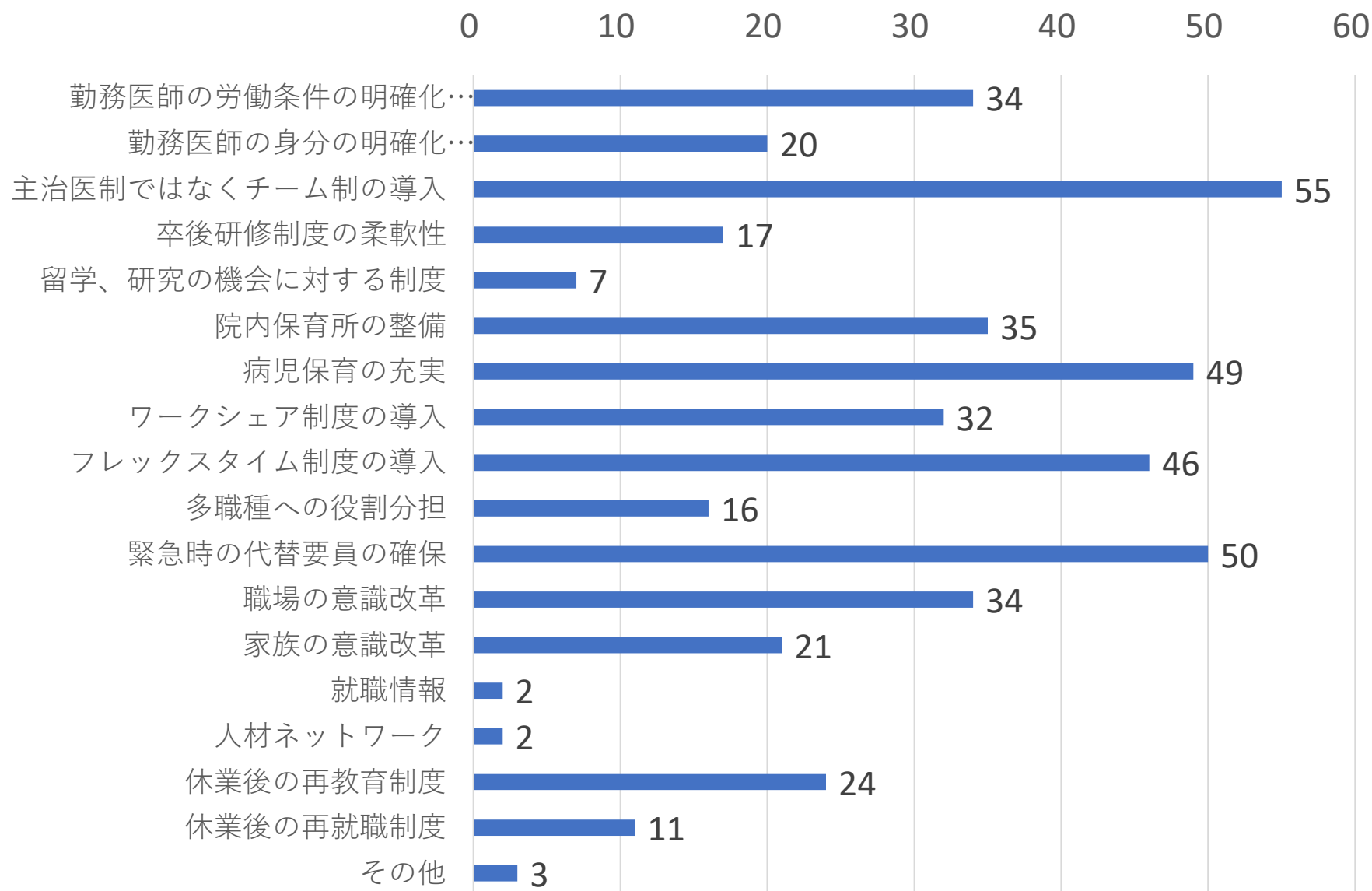
Q13 消化器内視鏡専門医の方は取得時の卒後年数をお教えてください。（回答39人）



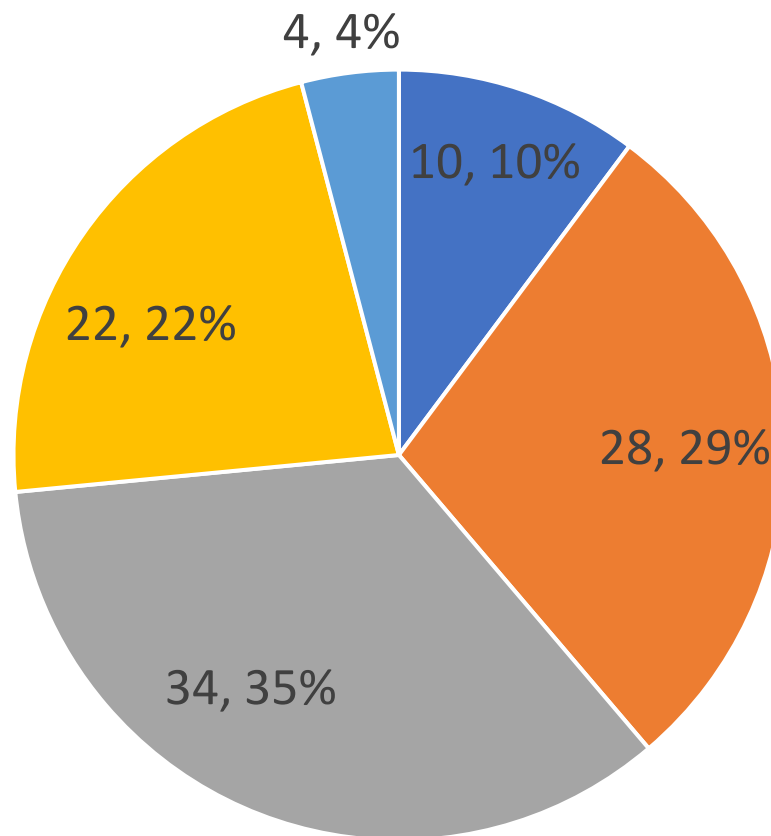
Q14 ご自身のキャリア形成に障害となっているものがありますか。
(複数回答可。)(回答98人)



Q15 ご自身がキャリアを積む上で、支援が欲しいと思ったことを選択ください。
(複数回答可)(回答98人)



Q16 仕事内容に関し性差を感じたことがありますか。(回答98人)



- 全く感じない
- 感じないことが多い
- どちらともいえない
- 感じるが多い
- 非常に多く感じる

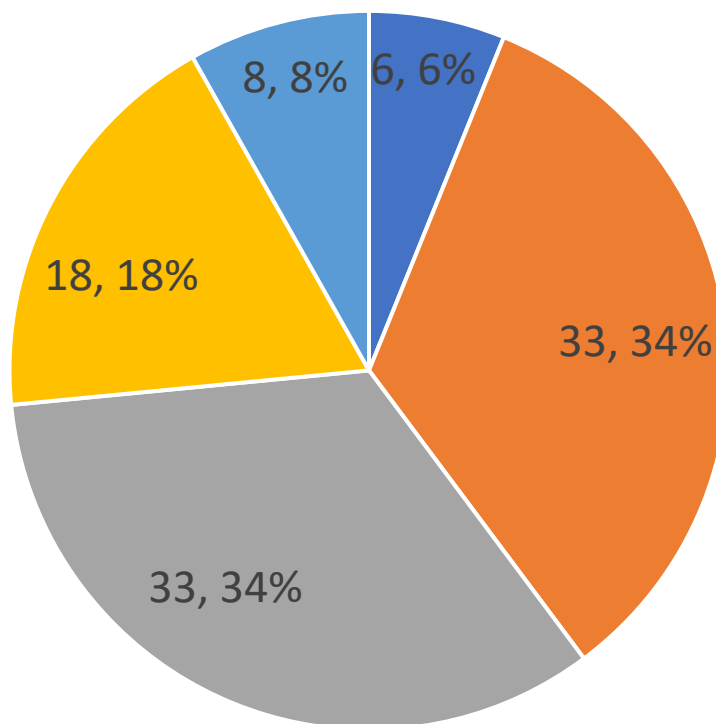
昇進に関する性差を感じるか（Q17 スライド27）については、「感じないことが多い」と「どちらともいえない」が34%と最も多いが、「感じるが多い」、「非常に多く感じる」を合わせると26%であった。

女性内視鏡医が同僚として勤務する場合の支障（Q18 スライド28）については、「全く感じない」が42%と最も多く、「感じないことが多い」、「どちらともいえない」を含めると97%であり、支障を感じるとの回答は少数であった。

キャリア支援として学会が行うべき取り組み(Q19 スライド29)については、教育講演会と学会のWeb形式の開催がそれぞれ79%、77%と多く、その他にライブセミナーのWeb形式開催が69%、復職支援プログラムが50%であった。

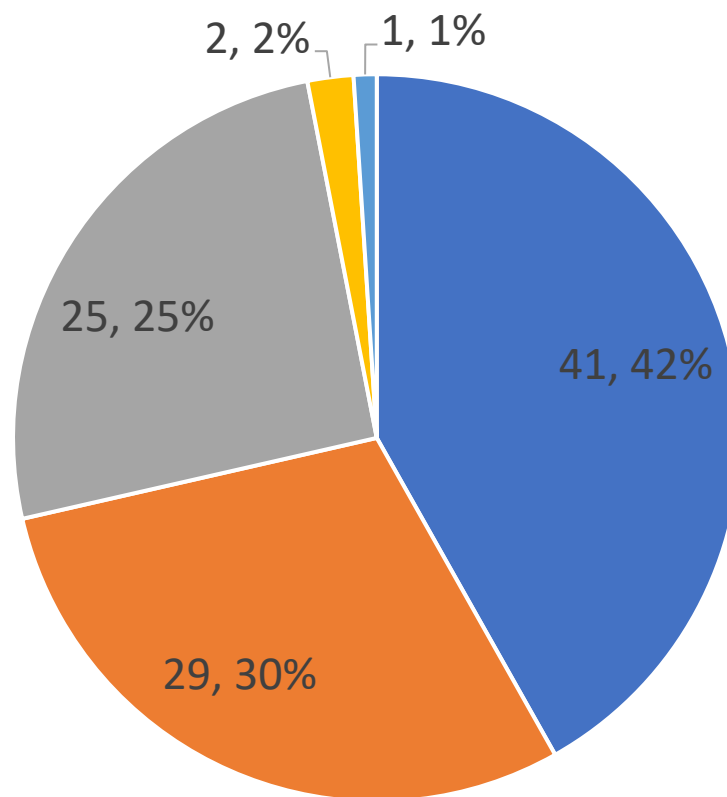
内視鏡のハンズオンセミナーについて（Q20 スライド30）はWeb形式の希望が82%であり、また各地域で行うことも39%が希望していた。

Q17 昇進に関して性差を感じたことがありますか。(回答98人)



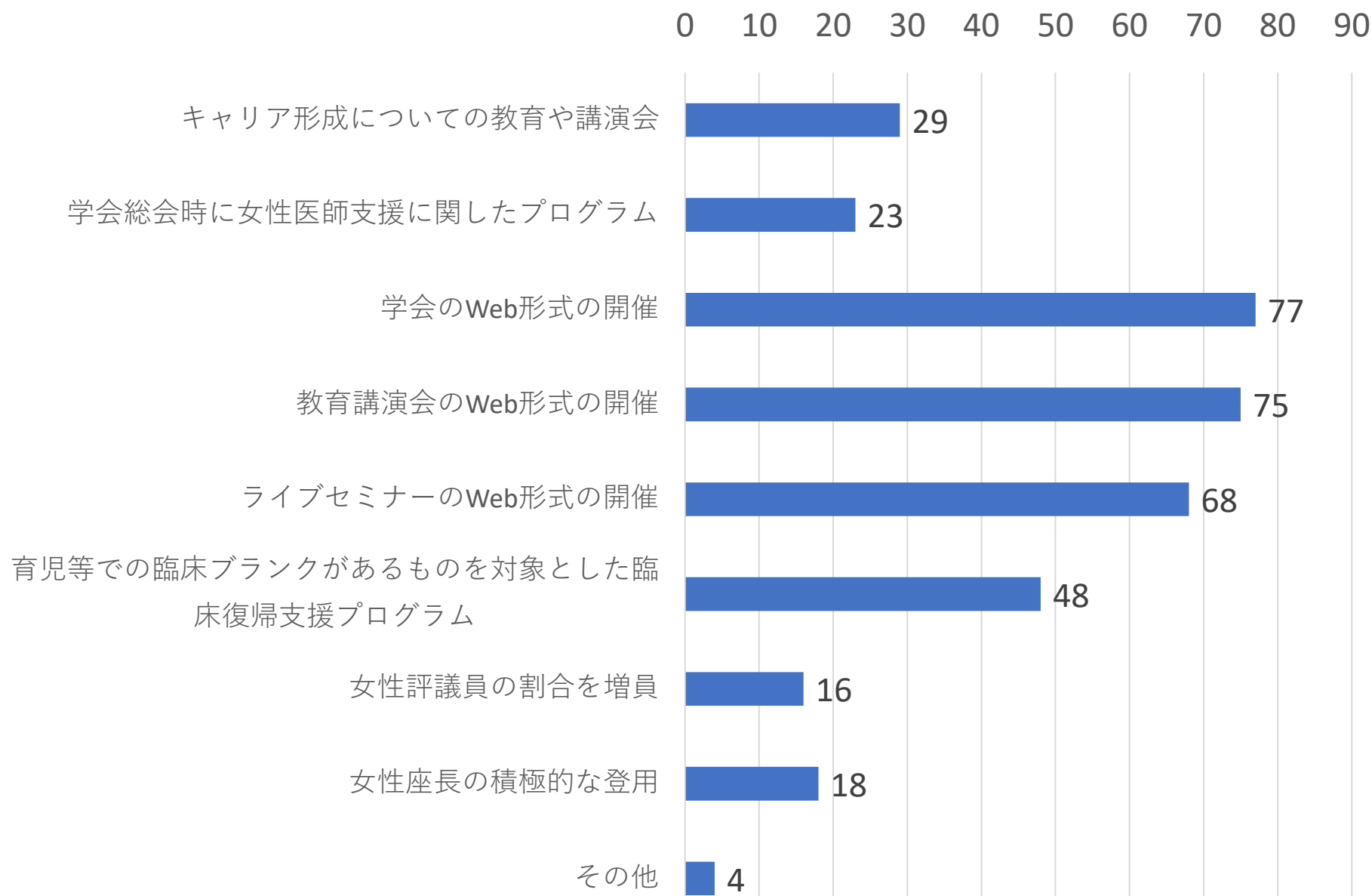
- 全く感じない
- 感じないことが多い
- どちらともいえない
- 感じるが多い
- 非常に多く感じる

Q18 女性内視鏡医が同僚として勤務する場合に自分にとって支障となると感じますか。(回答98人)

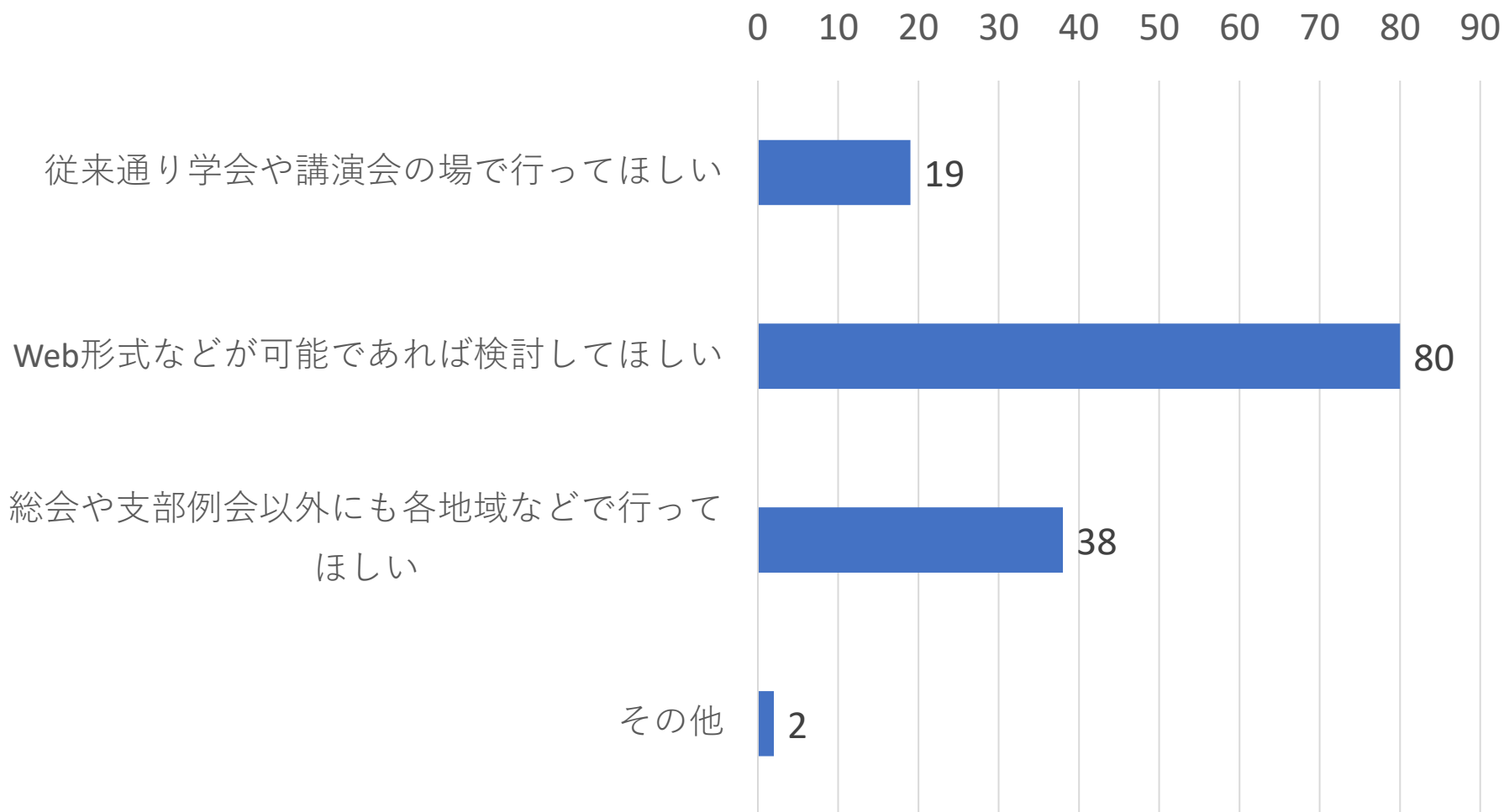


- 全く感じない
- 感じないことが多い
- どちらともいえない
- 感じるが多い
- 非常に多く感じる

Q19 女性のキャリア支援として当学会で行うべき取り組みと思うものを選択ください。(複数回答可)(回答98人)



Q20 内視鏡のハンズオンセミナーについてお答えください（複数回答可）
（回答98人）



4：キャリアサポート研修

今回のアンケート回答では、11人(11%)がキャリアサポート研修を受講しており（Q21 スライド32）、うち82%が「出身医局・大学・所属病院関連」の研修を受講していた（Q22 スライド33）。研修期間（Q23 スライド34）は「1ヶ月以上」が46%と最も多く、ついて「1-2日間」が27%であった。

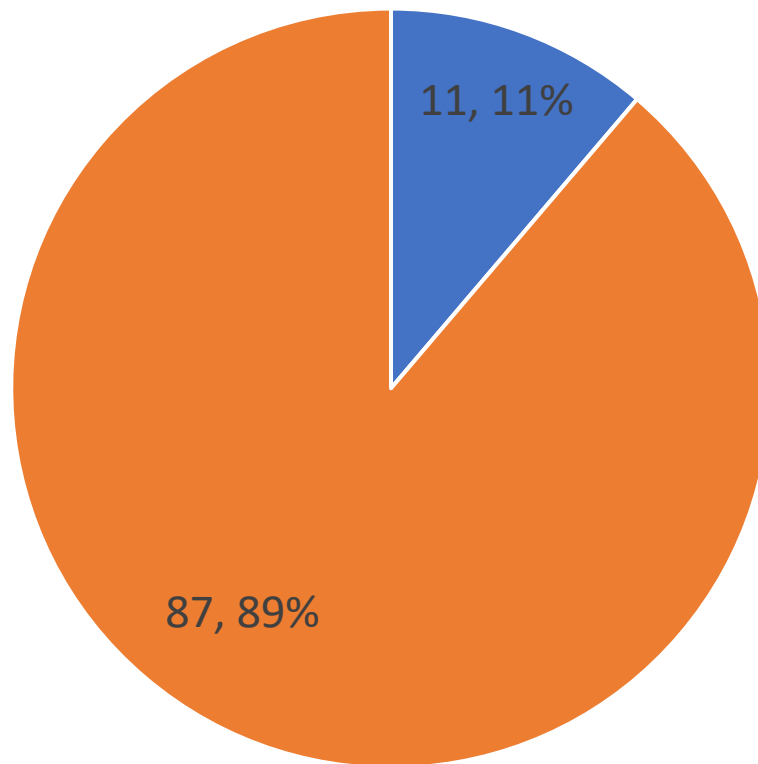
有用であった内視鏡練習機器（Q24 スライド35）は、「コロンモデル」が55%と最も多く、次に「内視鏡シミュレーター」が45%であった。一方、18%は「当てはまるものはない」と回答していた。

主に指導を受けた医師（Q25 スライド36）は、55%が内視鏡指導医、27%が内視鏡専門医であり、82%が専門医以上の医師から指導を受けていた。

研修中の内視鏡検査経験数（Q26 スライド37）は、49例以下が36%で、100例以上が64%であった。これは前述の研修期間の回答で、「1ヶ月以上」の長期研修と「1-2日間」の短期研修が多かったことを反映した経験数と思われる。

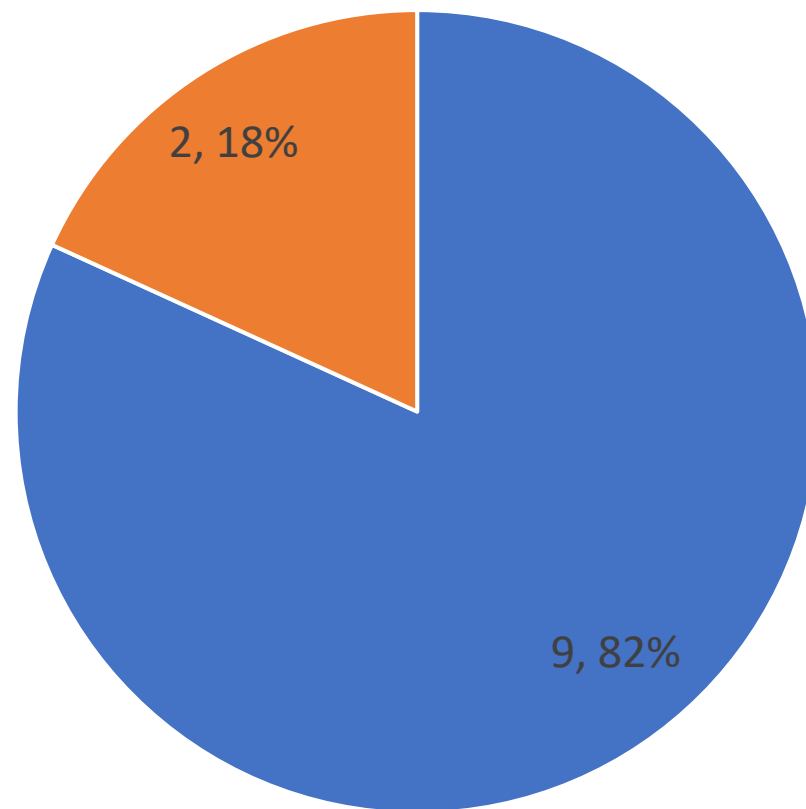
治療内視鏡の研修（Q27 スライド38）は73%が受けることができていた。研修後の専門医取得（Q28 スライド39）は、37%が取得しており、取得予定の27%と合わせると64%であった。

Q21 消化器内視鏡に関する何らかのキャリアサポート研修を受講されたことがありますか？（回答98人）



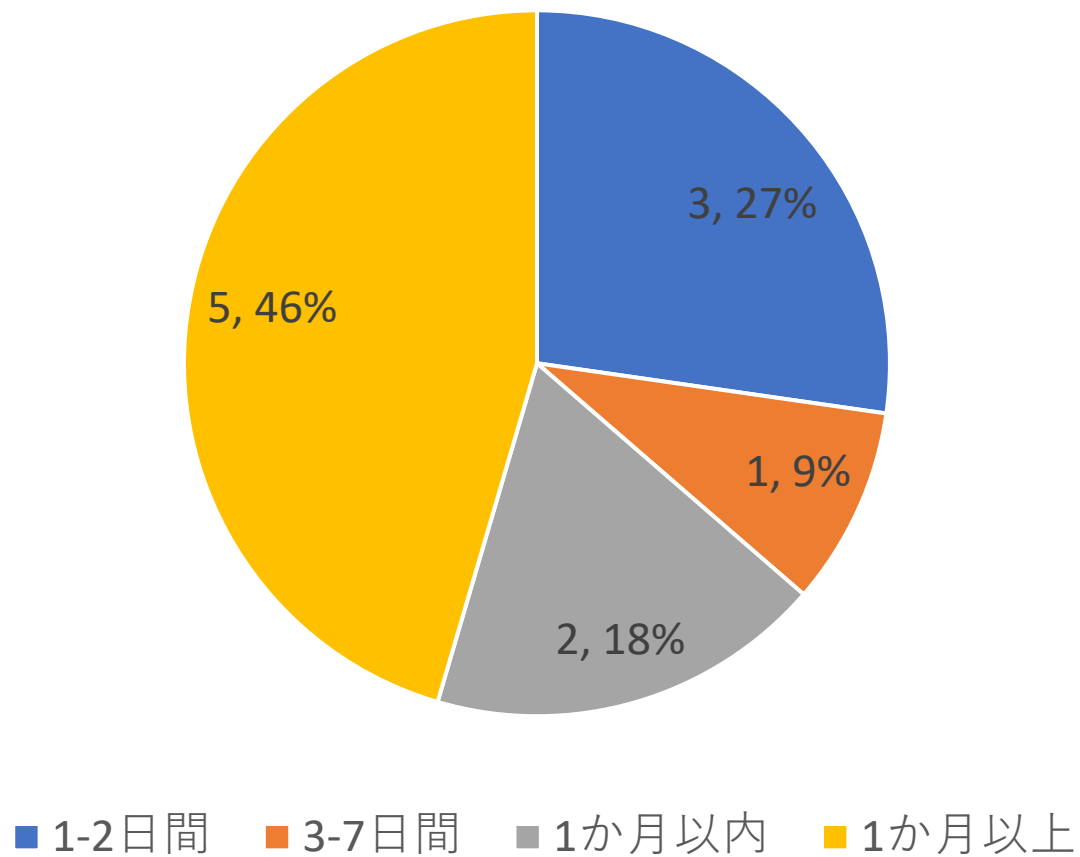
■ あり ■ なし

Q22 受講した研修はどのような形態でしたか。(回答11人)

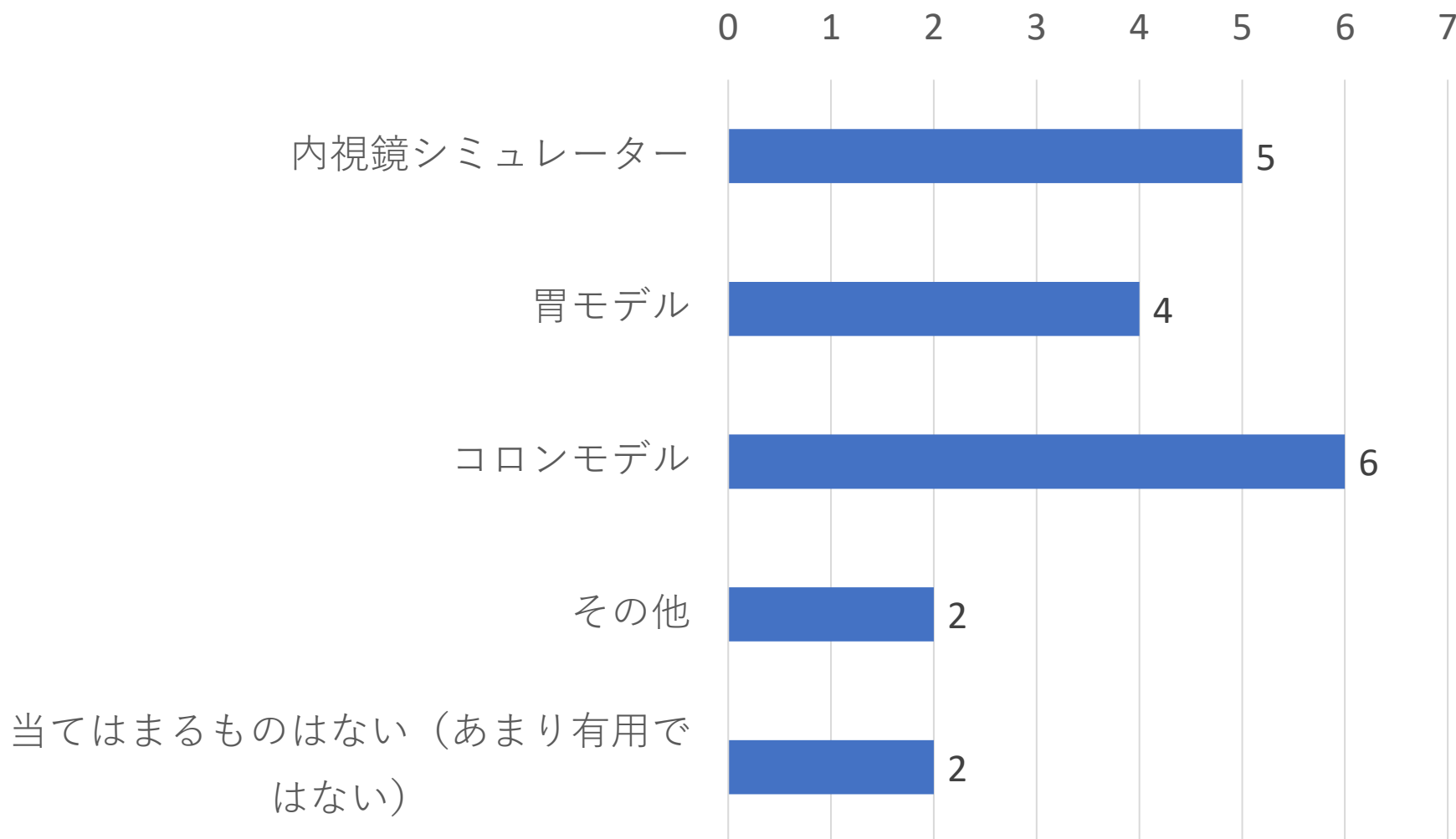


■ 出身医局・大学・所属病院関連 ■ 関連無し

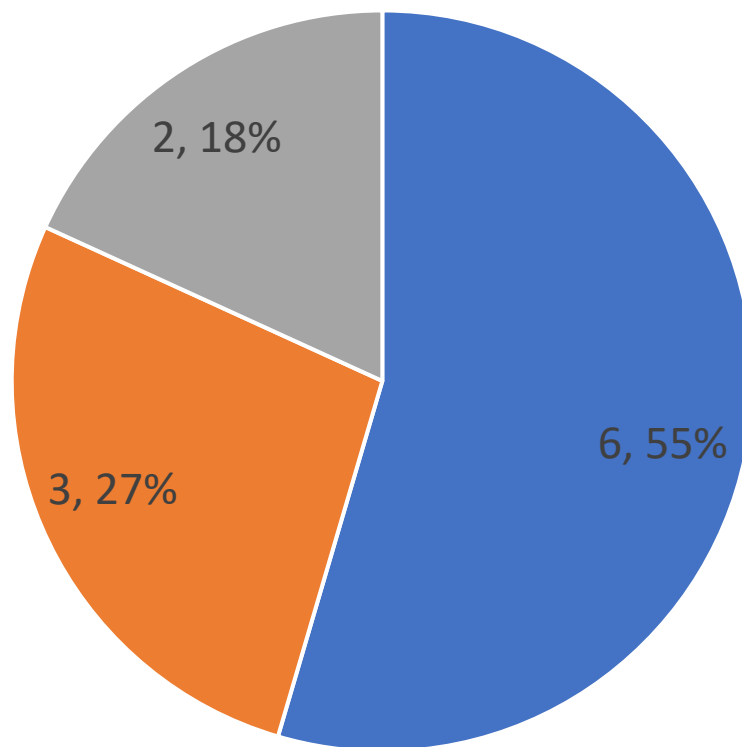
Q23 研修期間はどれくらいでしたか。(回答11人)



Q24 内視鏡手技習得にはどの練習機器が有用でしたか。(複数回答可)(回答11人)

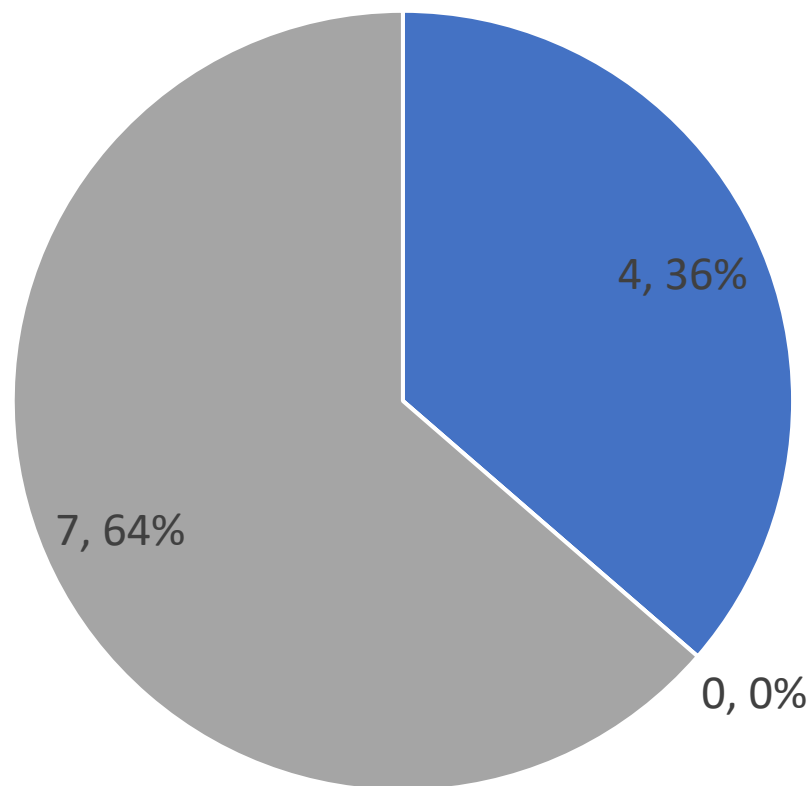


Q25 主にどなたに指導を受けましたか。(回答11人)



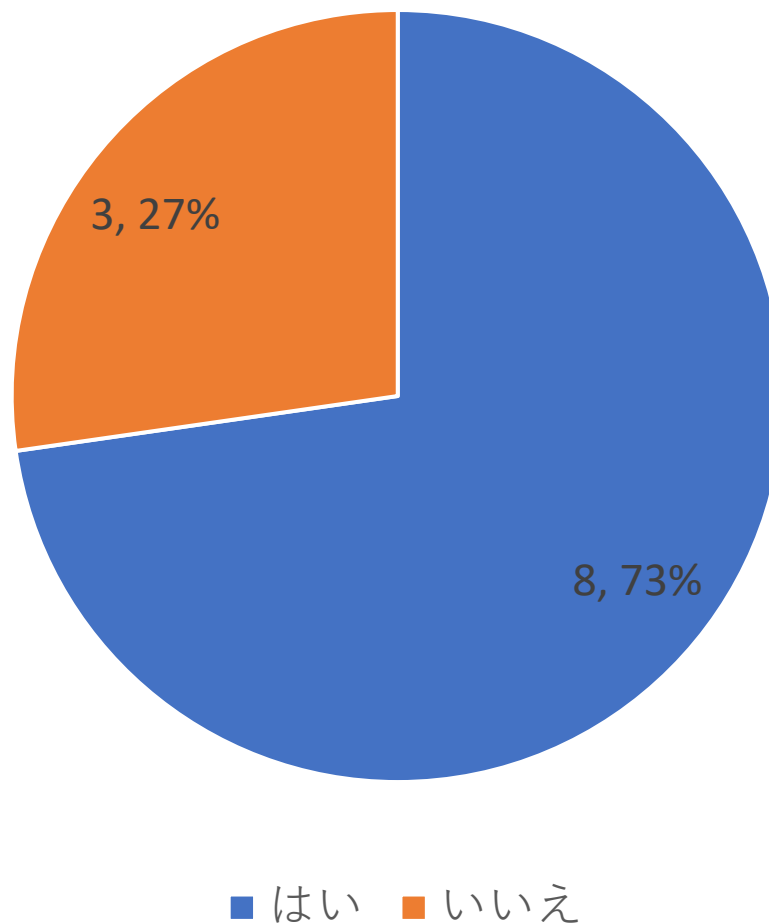
■ 消化器内視鏡指導医 ■ 消化器内視鏡専門医 ■ それ以外のスタッフ

Q26 内視鏡研修で何件の内視鏡検査を経験しましたか。(回答11人)

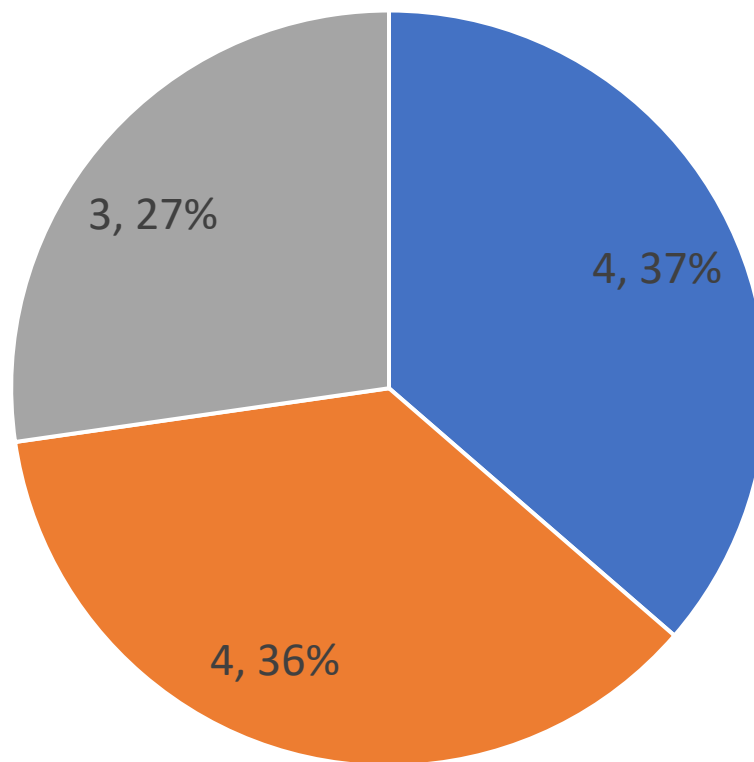


■ 1-49例 ■ 50-99例 ■ 100例以上

Q27 治療内視鏡も研修しましたか。(回答11人)



Q28 その研修後に消化器内視鏡専門医を取得しましたか。(回答11人)



■ はい ■ いいえ ■ 取得予定

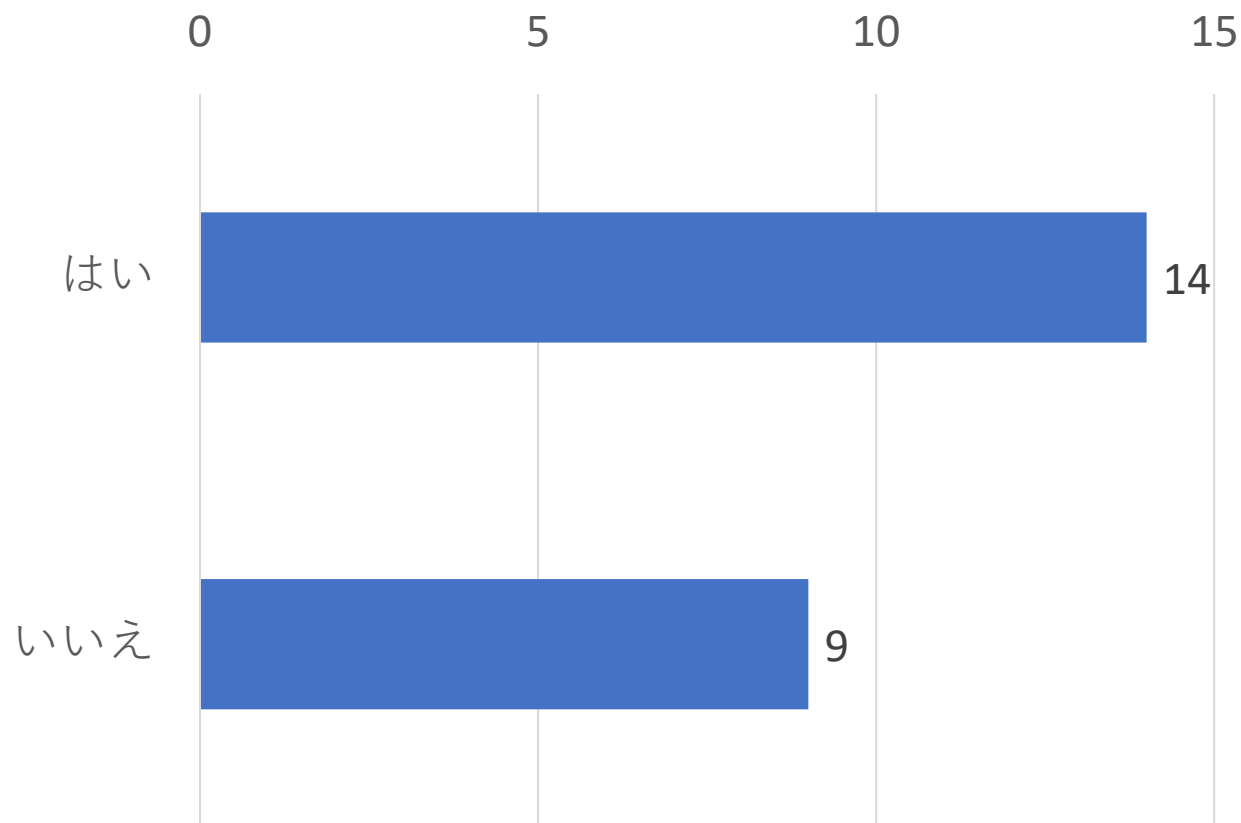
今回のアンケート回答時のキャリアサポート研修の希望（Q29 スライド41）については、回答があった23人中14人(61%)が希望していた。

キャリアサポート研修において解決すべき問題点(Q30 スライド42)は、「研修施設の増加」が54%と最も多く、次いで「各地方での研修施設の整備」が51%、「研修施設の情報提供が足りない」が39%、「研修施設の保育所・託児所整備」が34%であった。

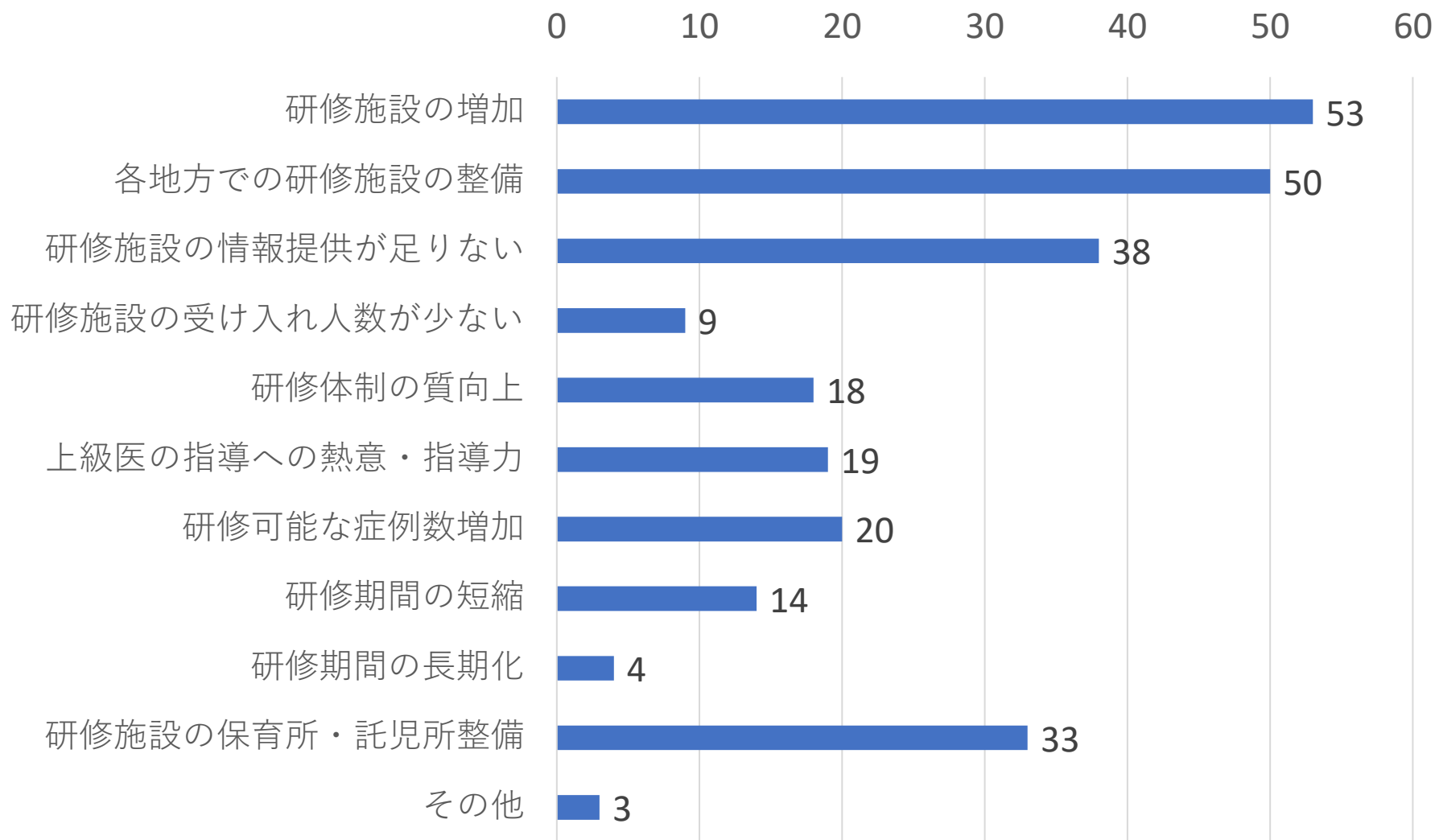
出産・育休後の復帰にあたり解決すべき問題点(Q31 スライド43)については、「当直・オンコールの免除」が73%と最も多く、次いで「子供の急病時にはいつでも休める環境」が70%、さらに「病院保育・院内保育の整備」、「施設幹部・上司・同僚の理解」、「勤務体制整備」、の順であり、これらは約60%以上が解決すべき問題点として回答していた。

将来に希望する勤務形態(Q32 スライド44)では、「市中病院(常勤)」が39%と最も多く、次に「主に内視鏡検査(検診を含む)」が17%であった。「内視鏡診療から離れたい」、「家事・育児に専念したい」という回答はそれぞれ1%、2%であった。

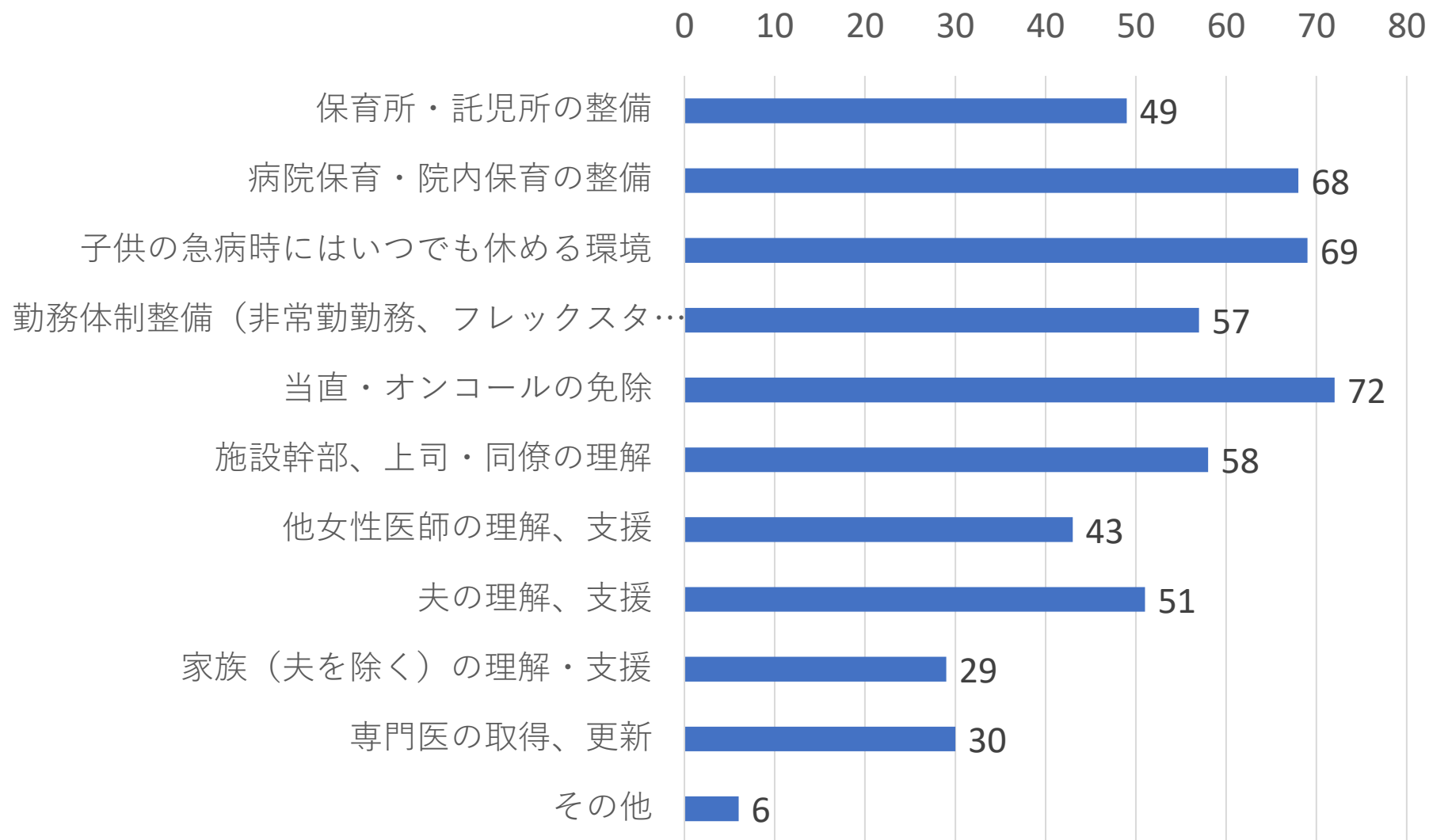
Q29 現在、消化器内視鏡のキャリアサポート研修を希望しますか。
(回答23人)



Q30 消化器内視鏡のキャリアサポート研修において解決すべき問題点は何でしょうか。(複数回答可)(回答98人)



Q31 出産・育休後の復職にあたり解決すべき問題点は何でしょうか。
(複数回答可)(回答98人)



Q32 将来はどのような勤務形態を希望しますか。(回答98人)

